



対話で深めるビジネスのキーワード

～今回のキーワード「グローバル化」～

横浜市立横浜商業高等学校
再任用教諭 粕谷 和生



登場人物



: K先生



: Aくん



: Bくん



: Cさん

【グローバル化とは本当はどういうこと？】



: ビジネス基礎の教科書に「人・商品・お金が国境を越えて自由に移動することをグローバル化という」と書いてあるけど、ピンとこないんだ。



: ほとんどの本にそのように書いてあるよね。ボクは、海外旅行や海外出張が増えているのが人の移動のグローバル化。巨大船舶や航空貨物機の発達による大量輸送と高速化が商品の移動のグローバル化。

そして外国への送金がネットで自由にできるようになったことが、お金の移動のグローバル化と理解している。



: それがグローバル化？ そんな単純じゃないと思う。



: そうだ、K先生のところへ行ってみよう。

【NAFTA を調べる】



: 教科書に「人・商品・お金が国境を越えて自由に移動することをグローバル化という」と書いてあるのですが、イメージが湧かないんです。



: そうだね。グローバル化には、いろいろな意味があって、しかも時代とともに変わっているからね。



: 人・商品・お金が国境を越えて自由に移動する具体例はありませんか？



: 1994年発効のNAFTA(ナフタ)によるアメリカとメキシコの関係が格好の材料になると思うよ。



: NAFTAって何ですか？



: 北米自由貿易協定といって、15年かけて関税の99%撤廃を目指したアメリカ・カナダ・メキシコによる自由貿易協定です。



: NAFTAが、グローバル化を理解するいい材料になるんですね。ボクたち調べます。

【商品と人が国境を越える】



: NAFTAについて調べてきました。まず、NAFTAによって、アメリカの小麦粉など安い農作物がメキシコに売られたこと。その結果、メキシコの多くの農家が廃業に追い込まれたこと。




: その廃業した農家は人口の約10%に上り、その人たちはアメリカに渡りました。





: よく調べたね。それで疑問は解けた？





: はい、この例で国境を越えたのは、アメリカの農作物とメキシコの農家の人たち。だから、商品の移動は農作物で、人の移動はメキシコの農家の人たちってことになります。

 : 農作物の輸送には、鉄道やトラックが使われるから、ボクが前に挙げた巨大船舶や航空貨物機の発達とは直接関係ありませんでした。


 : それにメキシコの農家の人たちは、海外旅行でアメリカに来たわけでもないし、出張で来たわけでもない。働くためにアメリカに来ました。

 : そうだね。メキシコの農家の人たちは、外国人労働者つまり移民として来たんだね。


 : 外国人労働者と移民は同じですか？


 : 異なるという見解もあるけど、国連人口部の移民の定義は「移民とは出生あるいは市民権のある国以外に1年以上住んでいる人」だから区別する理由はありません。

【商品の移動を自由にさせるもの？】


 : それでは、次に考えなくてはならないことは何かな？

 : 国境を越えた農作物とメキシコの農家の人たちが「自由に」移動できた理由は何か？


 : そのとおり。この場合の「自由」は、「制限がない」とか「法律などによる規制がない」という意味の自由です。


 : 制限なく移動できる、移動に規制がないということは、移動しやすいということですね。


 : 国境に移動を阻む「壁がない」ということ。

 : その壁というのは何かな？

 : わかりました。今、問題になっている米中貿易戦争の「関税」ですね。

 : 関税が撤廃されるというのは、その壁がなくなるということ。関税が引き下げられるというのは、その壁が低くなるということです。


 : NAFTAによって多くの商品の関税が大幅に引き下げられ、壁が低くなったから、アメリカの農作物がメキシコになだれ込んだということですね。


 : その通りです。これまでに分かったことを整理しておこう。

関税の撤廃または大幅な引き下げ → 商品が国境を越えて自由に移動


近年では、関税以外についても商品の自由な移動の障害となる非関税障壁についても撤廃の動きが盛んです。

【生産性の違い】


 : NAFTAによって関税が引き下げられた、つまり、壁が低くなったのはメキシコにとっても同じですよ。でもどうして、メキシコの農作物はアメリカに流れなかったのですか？


 : とても大事なことに気づいたね。アメリカにとってもメキシコにとっても関税という壁が低くなったのに、なぜ、アメリカからメキシコに農作物が一方的に流れたか？

 : アメリカの農作物の値段が安かったからです。


 : そうか、安ければ売れるよね。


 : それでは、なぜ、アメリカの農作物はメキシコよりも安かったのか？

 : それは、アメリカの方が安く生産できるから。

 : アメリカは、メキシコよりも安く生産できるのは、なぜ？


 : 農地が広いとかトラクターなどの機械化が進んでいるとか、農家が大規模とか。

 : そのとおり。同じコストで同品質の商品を相対的に多く生産できることを「生産性が高い」といいます。生産性が高ければ、安く農作物を生産することができます。


 : 関税という壁をなくしたり、下げたりすると生産性の高い国の商品が生産性の低い国に一方的に売られるということですね。


【なぜ、人が移動？】

 : Cさんが来ました。

 : 遅れてすみません。「グローバル化の意味を具体的に理解する」がテーマですね。仲間に加えてください。


 : それでは次の課題「人が国境を越えて自由に移動」とは、どういうことか。

 : 国境を越えたのは廃業したメキシコの農家の人たちです。彼らは、外国人労働者、つまり、移民としてアメリカに移り住んだ。


 : そうだったね。アメリカは建国以来、移民を多く受け入れてきた国で、移民法という法律もあるくらいです。だから、メキシコの農家の人たちがアメリカに移り住むのは比較的容易だった。日本も出入国管理法が改正されて、今年（2019年）の4月から外国人労働者の受け入れが一定の条件の下で可能になった。グローバル化における人の移動について整理しておこう。

人の受け入れに規制がない（または規制が緩い）。→ 労働者として国境を越えて自由に移動


 : アメリカは、移民大国といわれるくらいの国だからメキシコ人の移住も容易だったんですね。

 : しかも、アメリカに渡ったメキシコの農家の人たちは、簡単に仕事に就けた。


 : それは、メキシコの人たちがアメリカ人よりも安い賃金で働くから？


 : アメリカ人労働者にとっては、自分たちより安い賃金のメキシコ人が増えれば、自分たちの仕事は奪われるかもしれないし、賃金も上がらない。


 : グローバル化における人の移動は、受け入れ国側にとっては厄介なこともあるんですね。


 : だから、トランプ大統領は、メキシコとアメリカの国境に壁を築くと言い出した？

【お金の国境を越えた移動とは？】

 : 引き続きアメリカとメキシコを題材に、お金の国境を越えた移動について見てみよう。1990年代から五大湖周辺の自動車メーカーをはじめ多くの製造業は、メキシコのあちこちに工場を建設して、低賃金で現地の人を雇って生産した。それをアメリカに輸入するという形で今日に至っている。

 : 日本の自動車メーカーもメキシコに工場を持っていますよね。

 : 日本は世界中に工場や大規模店舗などを建ててビジネスしているんでしょう？

 : 国境を越えて移動するお金が見えてこないです。



：お金自体は直接見えてこないけれど、確実にお金は移動しているよ。



：そうか、外国に工場などを建設するためにはお金がないとできないですね。



：よく気付いたね。そのようなお金の移動を「直接投資」といいます。



：「外国にお金を移動して、そのお金で工場などを建設して、現地で生産する」という理解でいいですか？



：厳密ではありませんが、ザックリとした理解としては十分です。



：現地生産を目的に、外国に工場などを建てたりするのが、グローバル化におけるお金の移動ということですね。



：今回のアメリカとメキシコのケースでは、メキシコに建設した工場で働くのはメキシコ人だからメキシコの雇用は増えてハッピーだけど、アメリカ国内の雇用は増えない。



：直接投資では、自国の雇用は増えず、相手国の雇用は増えるという結果になるのですか？



：むしろ、自国の雇用は減るといった方がいいかもしれない。なぜなら、アメリカの場合、アメリカにある工場を閉鎖して、賃金の安いメキシコに工場を移したから、アメリカの雇用は減少しました。



：ということは、アメリカの製造業で働いていた多くの人は、仕事を失った。



：以前は、製造業で栄えた地域が、今日では錆びついた工場だけが残る「ラストベルト」地帯になってしまった。



：だからトランプが大統領になれたのですね。



：どういうこと？



：トランプ大統領は「製造業をアメリカに呼び戻す。」とか「国境に壁を作る」とか、「トヨタにアメリカに工場を建てろ」というだろう。これらはみんなラストベルトの労働者の雇用を確保するための政策だったんだ。それで白人労働者の票を集めた。

【もう一つの国境を越えたお金の移動】



：お金の国境を越える移動には、もう一つのパターンがあります。



：ビジネス基礎の授業でやった直接金融と間接金融をヒントに、「直接」を「間接」に置き換えて、もう一つのパターンとは「間接投資」ですね。



：そういうひらめきはとても重要です。それで間接投資とはどういうこと？



：そこまではわかりません。



：間接投資は、外国の株式や債券などを購入することで「証券投資」ともいわれます。間接投資の目的は、配当金や利子、キャピタルゲイン（値上がり益）の獲得です。



：外国の証券を買うとグローバル化におけるお金の移動が起こるのですね。



：2018年の東京証券取引所の株の売買は、7割を超える金額が外国人投資家によって行われていると聞きました。




：そういえば、ソニーの株主は6割近くが外国人らしい。だから、ソニーは外資系？





：今日では、直接投資も間接投資も完全に近いところまで自由化されているから、地球上のお金は目まぐるしく移動しています。それでは、グローバル化におけるお金の移動をまとめておこう。

直接投資と間接投資の自由化→ お金が国境を自由に移動

 : 次は地球上で最もグローバル化が進んでいる EU について見てみよう。


【グローバル化が最も進んだ EU】

 : EU について調べてきました。1993 年のマーストリヒト条約の発効によって生まれた外交、安全保障、経済等の統合体で「欧州連合」と呼ばれています。**シェンゲン協定など各種の協定や条約により、国境管理や加盟国間の制度の違いなどの障壁が取り除かれて、域内の人・商品・お金の移動は自由です。**


 : 1999 年には単一通貨ユーロが導入されました。ただし、EU 加盟国のすべてがユーロを採用しているわけではありません。例えば、イギリスはユーロではなくポンドのままです。


 : そのイギリスですが、EU からの離脱問題で揺れています。


 : よく調べてきたね。


 : 先生がおっしゃったとおり EU は最もグローバル化が進んでいます。GDP による経済規模ではアメリカに匹敵します。


【グローバル化に逆行する動き】


 : EU はあまりにもグローバル化が進んでいるので、逆に心配なことがあります。前に学習した NAFTA では、アメリカの安い農産物がメキシコになだれ込み、その結果、多くのメキシコの農家が廃業しました。そして、メキシコの農家の人たちは安い労働力としてアメリカに渡りました。それに製造業を中心にアメリカからメキシコへの直接投資が増えてアメリカの雇用が減少しました。それが原因でアメリカ社会に不満が溜まりました。

 : それで、アメリカ・ファーストを叫ぶトランプが大統領に当選した。アメリカ第一主義は、グローバル化に逆行するものですね。反グローバルといってもいいかもしれません。


 : 反グローバルという意味では、イギリスの EU 離脱問題も同じです。

 : EU の中には、近年、統合推進に対抗する勢力が強くなってきています。ある新聞では「EU 懐疑派」と言っています。EU の中で起きているグローバル化に逆行する動きは、今年 5 月に行われた欧州議会選挙の結果から、はっきりとわかります。

 : 欧州議会についても調べました。欧州議会は EU の立法府です。議席数は国別の人口に比例して割り当てられていて、直接選挙が行われます。

 : 欧州議会は EU の立法府だから、国ごとの立法府よりも上に位置します。

ですから、欧州議会で決まったことは、加盟国の立法府を縛ることになります。

 : これが、今回の欧州議会選挙を報じた 5 月 27 日と 28 日の新聞です。見てごらん。


 : うわぁー！この見出しを見て。「EU 懐疑派 仏伊で第一党」だって。


 : ここには、「EU 懐疑派躍進 移民・緊縮 不満受け皿」って書いてある。

 : イギリスは、EU 離脱の実現だけを掲げる EU 離脱党が第一党になったと書いてある。


 : **グローバル化が最も進んだ EU が、グローバル化によって混乱している。**


【移民・緊縮財政・経済格差】


 : 新聞には、人々の不満の原因は、移民・緊縮財政・経済格差と書いてあるだけで、よくわかりません。


 : EU には、移民政策を加盟国共通の基準で行おうという「欧州共通移民政策」があります。したがって、加盟国が独自に移民政策を打ち出すことはできません。


移民政策は、本来は各国の主権行為ですが、それが EU における条約や協定によって制限されています。


 : 移民問題の不満は、そういうことなんですね。


 : 二番目の緊縮財政というのは、どういうことですか？


 : 財政政策は各国に委ねられています。しかし、財政赤字と、いわゆる国の借金については、GDP と絡めた財政の基準があります。したがって、加盟国は歳出の削減と増税を中心とする緊縮財政を推し進めることとなります。

 : 歳出の削減というのは、政府の支出を切り詰めることだから公共サービスの縮小やインフラ整備ができないということですね。


 : 増税が行われれば、人々の所得のうち、消費に回せる所得も縮小します。

 : それなら人々の生活は苦しくなるから、社会に不満が出るのも無理はないです。


 : 緊縮財政ですが、一応、各国の主権の下で行われます。しかし、**金融政策については、ユーロの中央銀行に当たる ECB(欧州中央銀行)が一括して行いますから、ユーロ参加国に金融政策の主権はありません。**

 : 共通通貨ということは、ユーロ圏内に為替レートは存在しないということですよ。




しかも関税もない。

 : そうなると NAFTA でアメリカの農産物がメキシコになだれこんだように、生産性の高いドイツなどから生産性の低いギリシャなど南欧の国々へ輸出攻勢が続くことになる。


 : その結果、国家間の経済格差が生まれ、三番目の不満原因になった。

 : だいぶゴールに近づいてきたね。今回の欧州議会選挙の結果は、新聞の見出しを借りれば、ズバリ「EU 懐疑派躍進」です。つまり「反 EU の動き」です。重要な点は、なぜそうなったか？新聞のどこかに書いてあります。それを探して、今回のまとめにしましょう。

⋮

   : ありました。これです。

「統合を優先させ、加盟国の権利が制限される現状に不満が高まっている。」

 : 新聞にある「加盟国の権利」とは、加盟国の主権のことです。関税自主権といわれるように、本来は国ごとに関税をかける主権があります。それを条約や国際協定で制限しているのが EU です。また、移民についても同じで、本来は国ごとに移民政策の主権があるのですが、EU では、これも条約や国際協定によって制限されています。金融政策や財政政策なども同様に加盟国の主権が制限されています。**EU に参加したことによって国の主権が大幅に制限されている。自分の国の問題を自国で決められないことに人々の不満があるわけです。**これが今回の欧州議会選挙で明らかになりました。

※グローバル化の本当の意味を考えようとした三人には、とても深い学びができたようです。